

■大内義隆 西国随一の地域権力たる大内氏最後の当主。異例の官位昇進、公家下向による文芸興隆も、破綻に至る。

おおうちよしたか

細川政元殺害1507= 義興の嫡子に生まれる。

義興遣明船・1516= 9歳：

義興周防掃国1518=11歳：

寧波の乱・・・1523=16歳：

・・・・・・1524=17歳：父義興とともに、安芸に入り、武田光和と戦う。

・・・・・・1525=18歳：

以後管領不在1526=19歳：この年、後奈良天皇が即位するも、皇室の財政が逼迫していて、即位式を挙げるができない。

大内義興没・1528=21歳：***父義興が病没し、家督を継ぐ。まず家人の奢侈を禁じ、ついで領国経営に専念。**

・・・・・・1529=22歳：父の一周忌に、三条西実隆の子公条が下向してくる。以後、**転戦が続き、生涯上京できなかったが、**

遣明船復活・1530=23歳：左京大夫、幕府に要請して、遣明船の復活を許される。また、松崎天満宮造営の論旨も得て、落成。
この間、正室万里小路秀房の娘を正室に迎え、秀房が下向、

・・・・・・1533=26歳：天皇の覚えめでたく、**世襲官途ではない筑前守に任官、**

・・・・・・1534=27歳：少式冬尚を下して筑前・肥前を平定。**天皇家に惣用20万匹を献上、**

・・・・・・1535=28歳：大友義鑑と和し北九州の支配を安定。**京都御所の門修造の資を献上して、後奈良天皇の即位式を実現、**

天文法華の乱1536=29歳：**世襲官途ではなく、少式氏追討の名分となる待望の大宰大貳となり、昇殿を許される。天文法華の乱によ**

って、京都の大半が炎上、以後、公家の下向が多くなる。また、貴族社会の故実の蒐集に努め、

・・・・・・1537=30歳：毛利元就、嫡子隆元を大内義隆の質とする。**その成果、大内義隆問・三条西実隆答「多々良問答」が成る。**

銀輸出始・・・1538=31歳：備後守護山名氏政を攻撃、自刃させる。朝鮮に尊海を派遣、大藏経を求める(刻本が残存せずとの答え)。

・・・・・・1539=32歳：**携帯に便利な「聚分韻略」を開板。父義興の時から日明貿易を独占していて、この年の遣明船、**

・・・・・・1540=33歳：**世襲官途ではない伊予介に任官。尼子晴久が安芸に侵入すると、毛利元就を助けて撃退し、**

武田信玄登場1541=34歳：安芸厳島神社の祭礼を再興させる。**従三位に昇進、実に將軍足利義晴にならぶ位階で、公卿に列し、**

今川義元登場1542=35歳：**みずから大軍を率いて出雲へ出兵、晴久の富田城を攻めたが敗れ、世子晴持を失った。**

鉄砲伝来・・・1543=36歳：

その後は、文化的事業に力を入れ、歴代の大内氏の明・朝鮮との貿易を背景とする富裕と義隆の文化愛好

・・・・・・1545=38歳：この間、正室に仕えていた侍女を寵愛して、大内義尊が誕生。この年前に、**現役武家最高位の正三位、**

足利義輝將軍1546=39歳：来訪する公卿・文化人とともに、四書五経の輪講を行い、宗碩らとの連歌会も盛んに催す。

勘合船終・・・1547=40歳：兵部卿。**最後の遣明船まで、一応將軍の国書を得ているが、「日本国王之印」は大内氏が保管していた。**

上杉謙信登場1548=41歳：**異例の従二位まで昇る。**

ザビエル来日1549=42歳：ついに正室と離縁。

大内布教許可1550=43歳：**ザビエルが訪れ、キリスト教の布教を許したが、この時、ザビエルからソドマの罪(男色)に言及されて激**

高するなど、尚武からは全く遠ざかった日常となって、領国経営・家臣団統制が不安定となるなか、他の地方

権力では全くみられないものとして、朝廷が率先・集中して家臣を叙任するが、

織田信長登場1551=44歳：「宮島千句」を張行。*重臣陶隆房の反乱を招き、逃亡中の長門深川大寧寺で自刃。この時、前関白二条尹房

はじめ滞在中の公卿のほとんどが殺害され、武士らが義隆の貴族趣味を如何に嫌っていたかが分かる。